

如來光明の禮拜式

○晨朝の禮拜

南無阿彌陀佛

三禮

「至心に歸命す」

法身

報身

應身の

○聖き名に

歸命し

奉つる

三身即

三身即

一に在ます最と尊と唯一の如來よ

如來の在さる

處ところなきが故ゆえに 今現いまげんに此處ここに在ましますことを信しんじて 一いつ

心しんに恭禮きやうらいし奉たてまつる 如來にやらいの威力みちからと恩惠みめぐみとに依よりて 活いき

働はたらき在あることを得えたる我われは 我身わがみと心こころとの總すべてを捧ささげ

て仕つかへ奉たてまらん 翼こいねがはくは一いつに光榮みさかえを現あらはすべき務つとめを

果はたす聖寵みめぐみを垂たれ給たまへ

如來光明歎德章

佛阿難ほとけあなんに告つげたまはく。無量壽如來むりょうじゆにょらいの威神光明いじんこうみょうさいそん最尊第

一いちにして諸佛しよぶつの光明こうみょう及およぶこと能あたはざる所ところなり。是故このゆえ

に無量壽如來むりょうじゆにょらいを無量光佛むりょうこうぶつ無邊光佛むへんこうぶつ無礙光佛むげこうぶつ

無對光佛むたいこうぶつ燄王光佛えんのうこうぶつ清淨光佛しやうじやうこうぶつ歡喜光佛かんぎこうぶつ

智慧光佛ちえこうぶつ不斷光佛ふだんこうぶつ難思光佛なんしこうぶつ無稱光佛むしやうこうぶつ

超ちやう日にち月がつ光こう佛ぶつと號ごうし奉たてまつる。其それ衆しゆじよ生う有ありて斯この光ひかりに遇あふ
 ものは三さん垢く消しょう滅めつし身しん意い柔に軟ゆうなんに歡かん喜ぎ踊ゆ躍やくして善ぜん心しん生しようぜ
 む若もし三さん塗ず勤ごん苦くの處ところにありて此この光こう明みょうをみ見みたてまつ
 らば皆みな休く息そくを得えて亦また苦く惱のうなく壽じゆ終じゆうの後のち皆みな解げ脫だつを蒙こうむら
 ん。無む量りよう壽じゆ如に來らいの光こう明みょう顯けん赫かくにして十じつ方ぽうを照しやう耀ようす諸しよ
 佛ぶつの國こく土どに聞きこえざることなし但ただ我われ今いま其その光こう明みょうを稱しやう

するのみにあらず一切いっさいの諸佛しよぶつ聲聞しよもん緣覺えんがく諸の菩薩衆もろもろぼさつしゆも

咸ことごとく共に歎譽たんよしたまふこと亦またまた是かくの如ごとし。若衆生もししゆじよう

ありて其光明そのこうみようの威神功德いじんくどくを聞きて日夜にちやに稱説しようせつして至し

心不斷しんふだんならば意こころの所願しよがんに隨したがひて其國そのくにに生しよずること

得えて諸もろもろの菩薩聲聞ぼさつしよもん大衆だいしゆに共に歎譽たんよして其功德そのくどくを稱しよせ

られん其然そのしこうして後佛道のちぶつどうを得うる時ときに至いたりて普あまねく十方じつぱう

の諸佛菩薩しよぶつぼさつに其光明そのこうみょうを歎たんぜられんこと亦また今の如ごとくな

らむ 佛ほとけの言のたまはく我無量壽われむりようじゆ如來によらいの光明こうみょう威神いじんの巍々ぎぎ

殊妙しゆみょうなることを説とかんに晝夜ちゆうや一劫いつこうすこもなほ未いまだ盡つくす

こと能あたはじ

「至心ししんに勸請かんじようす」

三身即一さんしんそくいっに在まします如來によらいよ。如來によらいの眞應身みからだは在いまさゝる處ところ

なきが故にゆえ

今我身體はいまわがからだ

如來の靈應を安置すべき宮によらい せいおう やど みや

なりと信ずしん

諸の聖者の心宮もろもろ せいじや

に在しし如くこころ いま ごと

常に我等つね われら

が心殿に在らせ給へこころ あ たま

今や己が身を獻げて至心に如來いま おのれ み ささ かしん によらい

の靈應を勸請し奉つるせいおう かんじよう たてま

靈應常住に我心殿に在ましせいおうとこしなえ わがこころ まし

て轉法輪を垂れ給へたかきみちびき た たま

「至心しんに讚禮さんらいす」

南無なむ無量壽佛むりょうじゆぶつ

本有ほんぬほつしんあみだそん法身阿彌陀尊

迹あとを十劫じつこうに垂たれ在ましし

本迹ほんじやくふに不二になる靈體れいたいの

無量壽王むりょうじゆおうに歸命きみよせん

南無なむ無量光佛むりょうこうぶつ

十方三世一切じつぽうさんぜいつさいの

法報應ほつぽうおうの本地ほんじなる

獨尊統攝歸趣どくそんとうしよつきしゆに在ます

無量光むりようこうを頂禮ちよつらいす

南無無邊光佛なむむへんこうぶつ

如來無邊にょらいむへんの光明こうみょうは

四大智慧しだいちえの相すがたにて

徧あまねく法界照ほつかいてらしては

衆生しゆじようの智見ちけんを明あかすなり

南無無礙光佛なむむげこうぶつ

如來無礙にょらいむげの光明こうみょうは

神聖正義しんせいせいぎ恩寵おんちようの

靈德不思議の力にて

衆生を解脱し自由とす

南無無對光佛

絕對無限の光明に

攝化せられし終局には

諸佛と等き覺位をえ

大般涅槃に證入す

南無燄王光佛

衆生無始の無明より

惑と業苦の極なきも

だいえんおう ひかり
大燄王の光にて

すべて さわ のぞ
一切の障り除こりぬ

な む しょうじょうこう ぶつ
南無清淨光佛

によらい しょうじょうこう みよう
如來清淨光明に

われら じんく そそ
我等が塵垢は滌がれて

ろつこんつね きよ
六根常に清らげく

ししき おの うる
姿色も自づと潤ほるれ

な む かん ぎ とう ぶつ
南無歡喜光佛

によらい かん ぎ とう みよう
如來歡喜の光明に

われら なやみ やす
我等が苦惱は安らぎて

禪悅ぜんねつ法喜ほうき微妙みみょうなる

喜樂きらく極きわなく感かんずなり

南な無む智ち慧え光こう佛ぶつ

如來にょらい智ち慧えの光こう明みょうに

我われ等らが無む明みょうは照てらされて

佛ぶつの智ち見けんをかい示じして

如來にょらいの真ま理こと悟さと入らるれ

南な無む不ふ斷だん光こう佛ぶつ

常恒じょうごう不ふ斷だんの光こう明みょうに

我われらが意こころ志しは靈れい化かせば

作佛さぶつ度生どしやうの願のぞみもて

聖意みむね現あらはす身みこはなる

南な無む難なん思し光こう佛ぶつ

甚深じんじん難思なんしの光明こうみやうを

至心ししん不ふ斷だんに念ねんずれば

信心しんじん喚起かんきの時ときいたり

心こころの擘あけ瞳けこは成なりぬべし

南な無む無む稱しょう光こう佛ぶつ

如來によらいの慈光じこう被じむれば

七覺しちかく心こころの華はな開ひらき

神秘しんぴの靈感れいかん妙たえにして

聖きよき心こころによみがへる

南無超なむ ちやう日月光佛にちがつ とうぶつ

智慧ちひの日月ひつきの照てらす下もと

光ひかりの中なかに生活くらす身みは

聖意みむねを己おのが意こころとし

三業さんごう四威儀しいぎに行爲つとむなり

「光明こうみょう攝取せつしゆの文もん」

如來にょらいの光明こうみょうは◎遍あまねく十方じつぱうの世界せかいを照てらして念佛ねんぶつの

衆生しゆじやうを攝取せつしゆして捨すて給たまはず

「念佛ねんぶつ三昧さんまい」

「次に總そう回向えこうの文もん」

願ねがはくは此この功德くどくを以もつて⊙平等あまねくいつさい一切いっさいに施ほどこし同おなじく菩提ぼだい
心しんを發おこして安樂國あんらくこくに往生おうじやうせん

「至心ししんに發願ほつがんす」

智慧ちえと慈悲じひに在まします如來によらいよ。教主世尊おしえぬしせそんが六根常ろつこんつねに清きよ

らかに光顔みかおとこ永えいしなへに麗うるはしく在いましは内靈應うちれいおうに充みち

給たまひければなり我われらも完德かんとくの鑑かがみたる世尊せそんに倣ならひて如い

何かなる境遇ばあいにも姿色うるわしきを換かへざることを誓ちかひ奉たてまつる願ねが

はくは常つねに慈悲じひ 歡喜かんぎ 正義せいぎ 安忍あんにん 剛毅ごうき 貞操ていそう 謙遜けんそん

眞實等しんじつとうの徳とくを體たいし 外ほかは怨親平等おんしんびようどうに同體大悲おもいやりの愛あいを以もつ
て佗たに待たいし得えらるるやうに恩寵おんちようをたれ給たまへ

南無阿彌陀佛なむあみだぶつ

三禮さんらい